

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500056		
法人名	株式会社 楽生舎		
事業所名	グループホーム新庄		
所在地	広島県山県郡北広島町新庄674-1 (電話) 0826-82-3252		
自己評価作成日	平成28年3月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3493500056-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム周辺は自然があふれ、四季折々の風情が楽しめます。近くには保育所、小学校、中高一貫校があり、学校行事への参加や訪問を受け、交流を図っています。地域の祭りや行事にも、積極的に参加しています。ホームの横には畑があり、季節に応じた野菜を植え、育てて調理して食べたり、はぶ草や赤シソを植え育てて、お茶やジュースにして飲んでいきます。さらにヤーコンを育て、食べる事によって排便を促しています。また、近くの市民農園を借りてサツマイモを植え、毎年、保育園の園児さんと達と一緒に収穫を行っています。地域ケア会議に出席したり、認知症養成講座にも参加したりして、地域に密着したサービスの提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成17年4月開設のグループホームである。周囲はのどかな田園風景に囲まれ、少し高台にあるため、非常に見通しが良く、風光明媚な環境にある。地元の地区は、もともとグループホームがなく、地元のニーズを踏まえ設立された経緯があり、地域関係団体との関係も良好であり、様々な地域行事や消防訓練等を地域と共催しているほか、近隣には小中学校や幼稚園、保育園があり、子どもたちとの交流も盛んである。
事業所は高速道路のインターチェンジから近い立地にあり、遠くから面会に来た家族は観光がてら事業所に立ち寄ることができるほか、職員と家族との関係も良好であり、年2回行われる家族会も盛況であるなど、地域を含め、利用者・家族・職員とが一体となって認知症を支える取り組みを行っている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼時に法人の理念、グループホームの理念の唱和を行い、念頭におきながら、ケアに努めるようにしている。ホームでも勉強会に取り組みながら実践につながるよう心がけている。	朝礼時に理念の唱和を行っているほか、事業所の行う業務改善の取り組みの一環で、「どんなグループホームにしたいか」について、管理者と意見交換しており、意見を貼りだし、法人全体会議の場でも発表しているなど、管理者と職員とが理念を共有して実践につなげる取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時には、近隣の方との挨拶や雑談等の日常のお付き合いが出来ている。地域での予防体操に参加したり、正月や季節の行事に積極的に参加している。また、事業所内行事として年2回近隣の方を招いて交流を図ったり、保育園や小学校ともつながりが持てるように取り組んでいる。	公民館や市民ホールで、地域住民と共にボール体操を行っているほか、年2回事業所内でカラオケや踊り、楽器演奏のボランティアグループを招き、盛大に行う「お楽しみ会」を開催し、地域住民を事業所の車で送迎するなど、住民サービスを通じて、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	定期的に通信を作成し、役場や社会福祉協議会・保健センター、民生委員、近隣へ配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的な会議を開催し、ホームでの利用状況・活動内容・事故の状況を報告し、話し合いを行っている。頂いた意見は職員に報告し、サービス向上に生かしている。	運営推進会議は近隣の施設と共同で行い、活動内容や事故を報告し、改善策を話し合っている。事業所と参加者との意見交換を通じて、事業所運営に関する理解を深めてもらっているほか、年2回は、家族会とも合同で行うことで、家族からの理解も深めている。	定期的に行う運営推進会議の結果を家族会で報告するなど、会議に参加されない家族への事業所に対する理解を深めてもらうことで、より多くの意見を求め、サービス向上に活かせることを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状を知ってもらい、必要時には相談し、助言を頂いている。また、地域ケア会議に参加し、情報提供や協力関係が築けるように努めている。	地域の保健福祉センターで開催される地域ケア会議に参加し、行政も含めた地域の福祉関係団体との連携や、情報共有をはかっているほか、地域包括支援センターから事業所に対し個別ケースの利用照会があるほか、細かな情報をやり取りし良好な関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を行い、拘束による弊害を理解しながら、ケアに当たるように努めている。</p>	<p>身体拘束予防マニュアルが整備され、法人内でも研修会も行われている。事業所内においても、言葉による抑制を防止するための研修会を行うなどの取り組みを行っている。やむを得ず拘束を行う場合であっても、介助方法の工夫によって1ヶ月で拘束がなくなるなど、身体拘束廃止に至った成果がある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法の勉強会を持ち、利用者の保護・擁護者への対応を考え、適切な支援が出来るよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会へ参加し、制度への理解に努めている。資料をホームに設置するとともに、必要があれば御家族様の相談にのっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は文章と口答で説明を行い、確認をとりながら、理解・納得を得ている。改定時には、個々に説明を行い、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会の中で運営推進会議を開催し、アンケートを実施し、意見を表せる機会を設けている。頂いた意見は職員に報告し、ケアにいかしている。日頃の面会時には、入居者の方の状況を伝えながら、ケアの要望を伺うようにしている。</p>	<p>年2回、子や孫世代、ひ孫世代も含めた家族会を盛大に行い、事業所運営に対する意見をもらっている。また、事業所による無記名のアンケートを行っているほか、日頃から来訪する家族に対し、利用者の状況を伝えながら、ケアに対する要望を聞くなど、利用者からの意見聴取に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、常勤職員を対象に業務改善委員会を持ち、日頃の業務の確認等を行っている。全職員対象には全体会を行い、意見を出し合っている。意見は議事録にして、代表者も確認している。	常勤職員が参加する業務改善委員会、職員全員が参加する全体会が、それぞれ月1回あり、業務上の確認事項のほか、職員からの意見聴取を行い、議事録を作成し、代表者の確認も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社員寮や託児所を完備している。また、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取得する職員には勉強会が開かれるなど、向上心を持って働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、職場外研修に参加できるように配慮したり、定期的に職場内でスキルアップ研修会を開催している。年に1回部署別業務改善発表会を設けて、誰でも発表する側を経験し、自主的に業務改善に努められるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同グループ内での交流はもちろん、事業所外でも、研修・勉強会等でネットワークを作りサービスの質を向上させるため交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、入居時に、本人としっかりと話をする機会を持ち、困っている事や要望を聞き、全職員に伝達している。また、入居後は状態観察を行い、早く環境に慣れて頂けるよう、声掛けに努めている。知り得た情報は全職員で共有し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前また入居時には、家族と話す機会を持ち、困っている事や要望を聞くようにしている。また、その内容は全職員で共有し、ケアに反映させている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談員をはじめ、他職種と連携をとりながら、最善の支援が出来るよう対応している。また、事前の見学も自由にできるよう、受け入れ対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家事や畑での野菜づくり等、入居者の持てる能力を見極めながら、それぞれの力が活かせるよう、入居者と職員が協力しながら作業活動に取り組んでいる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時にはお茶を出す等、入居者と家族とのふれあいの場を作っている。また、正月やお盆の外泊や外出等をすすめたり、面会時の外出の声かけを行い、一緒に過ごせる機会が持てるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地域のボール体操や行事に参加する事で馴染みの風景・場、人とふれあう機会を作っている。</p>	<p>公民館では地域住民も参加したボール体操に参加し、知人と交流し、ふれあう機会があるほか、スーパーマーケットの催し物、近所で行われる夜市などでの知人との交流がある。また、元教え子などの来訪の支援、年賀状の宛名書きや写真の使用など、本人のこれまでの関係性が途切れないような支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士がふれあいが持てるよう、一緒に作業や家事を行ってもらっている。作業時等に参加できない入居者の方には、散歩に出かけたり、会話を持つ等、孤立することがないように努めている。また、3度の食事で利用者同士がホールで顔を合わせて食事ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、必要とされる家族の相談には、随時対応している。また、入院された方のお見舞いに行く等、関係を大切にしている。また、家人の希望に沿い、早い段階での再入居が出来るよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話をし、希望や気持の把握に努めている。また、本人からの聞き取りが難しい場合は、家族から話を聞き、本人の得意な事等を把握する事で、ケアに活かしている。	ひとり一人の思いや意向を利用時に確認するため、家族から詳細な聞き取りを行っているほか、日々の生活では、利用者の食べたいものを聞いて、メニューに取り入れるなど、できるだけ本人本位に検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族に生活歴や本人の暮らし方等について話を聞き、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の行動や会話、心身の状態等を記録に残している。申し送りを通して、職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族と話し合いを持ち、情報収集を行い、介護計画に反映させている。また、他職種と連携を持ちより良く暮らせるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえた介護計画を作成し、日々の会議記録を参考にして、半年ごとに介護計画を更新しているほか、介護記録や医療受診状況などを参考に、職員意見をもとに、本人の状況に応じて随時介護計画を検討、修正している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の状況や変化については、記録に残すとともに、しっかりと申し送りを行い、情報を共有しながらケアに努めている。また、随時モニタリングを行い、情報を共有し介護計画に反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域で行われる行事やお祭りに出かけ、地域とのつながりが作れるよう支援している。時には家族の相談に乗ったり、本人だけでなく、家族も含めて、柔軟な対応に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域で行われている介護予防教室に出かけ、地域の方と一緒に体操を行っている。また、自宅を見に帰り、近所の人とふれあう機会を持つ様にし、利用者が豊かな暮らしが出来るよう、支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は希望に沿って対応している。状態が変化した時には、早めに受診を行いながら、家族にも状況の報告を行っている。</p>	<p>協力医療機関による定期的な訪問診療のほか、総合病院や専門診療科、歯科などへの受診については、原則、家族の対応を依頼するものの、家族が困難な場合は、事業所が対応するなど、本人が適切な医療を受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護ステーションと医療連携をとっており、訪問日には状態を報告し、助言を頂いている。随時、異常や心配事があれば相談し、適切な指示を頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には介護要約を作成し、情報提供を行っている。入院された際には訪問し、安心されるように声をかけたり、状態把握に努めている。退院されて再入居される際には、状態を皆で把握し、スムーズに適切なケアができるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族には、入居時より重度化対応・終末期ケア対応指針について、書面と口答で説明している。本人・家族の意向にて、看取りの利用はまだない。</p>	<p>利用時に、重度化した場合の対応について説明を行っているほか、実際に重度化した場合は再度説明し、書面で確認をとるなどの対応を行っている。実際に事例はないものの、訪問看護と連携をとるなど、看取りに向けた体制を整えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDを設置しており、定期的に急変時の対応・救急処置等の勉強会を持っている。また消防訓練時には、消防署の方から、使用方法について学んだり、心肺蘇生法の研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域と「災害救護応援協力協定」を結んでいる。年に2回は防災訓練を行い、そのうち1回は、地域との合同で行っている。防災設備の取り扱い方や避難手順等は随時確認している。災害時適切に対応できるよう、マニュアルを整備し、事務所に掲示している。</p>	<p>平成21年に地元の町内会連合会との「災害救護応援協力協定」を締結し、締結書も交わしている。さらに、毎年地域と共同で防災訓練を行っているほか、非常食の確保、災害マニュアルの整備等も行うなど、地域を交えた防災協力体制を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ケア時にはプライバシーを守り、傷つけない対応を心掛けている。また、職員同士、適切な対応が出来るよう、声掛けを行いながら、ケアにあたっている。	日頃から、職員自ら声かけの内容に関するふり返しを行い、利用者の人格の尊重に努めているほか、管理者は日常での気づいた都度、注意を行っている。また、介助のためやむを得ずトイレの扉を開ける際はカーテンを閉めるなど、利用者のプライバシーに関する配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々に応じたコミュニケーションで本人の思いが表せるように努めている。言葉がうまく出てこない方にはスキンシップや五感が刺激出来るようなケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日をどう過ごすかを入居者を交え話している。出来るだけ希望に沿った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その時に合わせて自分で衣類を選び着用できるよう支援している。近所の美容院へ行ったり、いけない方にはホームに来てもらい散髪をしてもらう等、その人らしい身だしなみが出来るように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒にゴマすり、いんげん豆のすじとりと皮むき、盛り付け、配膳の準備等に関わっている。入居者同士で協力し各々が出来る事を行っている。	食事が楽しみなものになるよう、ゴマすりや箸並べなど食事の準備への参加のほか、一緒に洗い物を行うなど利用者同士が協力して食事準備ができるような配慮をおこなっている。また、ドライブや夜市など外出した際はおかずを購入するなど、楽しんで食べることが出来るように配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事、水分の摂取量は、記録に残し把握 している。水分摂取量が少ない方に対 しては、飲み物を変えてみたり、ゼリー等 で摂取出来る様、工夫している。嚥下状 態が悪い方に関しては、トロミ剤を使用 したり、お茶ゼリーを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には口腔内の確認や残渣物を取り除 く等、個々に合わせたケアを行っている。 就寝前には口腔ケア、義歯洗浄を 行っている。また、義歯の不具合があれ ば早めに歯科へ相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	入居者個々の排せつパターンを把握し、 トイレに行きたいというサインを見極め 個々に応じたケアを行っている。出来る だけトイレで排泄ができるように工夫支 援している。汚染がある方には声掛けの 工夫を行いながら更新をしている。	利用者の排泄パターンを把握するために 排泄チェック表を活用しているほか、リ ハビリパンツの使用により皮膚にトラブ ルがある方は、介助の方法を改善するこ とで布パンツとパットの併用にするなど、 排泄の自立にもつながる対応がなされ ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が出来るよう、適度な運動と十 分な水分摂取に努めている。また、トイレ にゆっくりと座り、腹部をマッサージ したりしている。起床時に、冷たい水を コップ1杯飲んでいただいたり、ヤー コン（野菜）を食べていただき、自然排便 を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	希望に合わせて入浴ができるよう支援し ている。入浴時には談話を行うなど、 ゆったりと入浴が出来るように努めてい る。また近くの温泉に行く等、普段と 違った環境で、入浴が楽しめるよう工夫 している。	利用者は週2～3回入浴することができ、 同じ職員が声かけ、誘導から介助まで対応 し、利用者が安心して湯船につかれるよう な対応がなされている。また、近所の温泉 施設に出かけて入浴し、お風呂上りにマッ サージャーにかかったり、お茶を飲んでゆっ くりするなど、入浴が楽しめるような支援 がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	天気の良い日には、日光浴や散歩に出かけたり、日中、個々に合った活動を提供し、充実した日を過ごすことで夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は個々の薬の目的や用法を理解したうえで、確実に服用できるように支援している。必要に応じては、口腔内へも介助し、服用するまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ホームでの生活に役割や生きがいを持てるように、入居前の生活歴の把握に努め、畑仕事や外出支援など、本人に合った活動を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日に合わせ、散歩や日光浴へと、外出できる機会を増やしている。また、地域のイベントやドライブなどへ出かけている。	天候の良い日には近隣に散歩に出かけたり、市民農園に出かけているほか、ドライブ、花見、温泉施設、夜市や近所のスーパーに出かけるなど、事業所の対応により、普段は行けないような場所にも出かけられるような支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者、家族と相談し、自己管理や精神安定のため持たれている方もおられる。予防体操時には、自分で支払えるよう支援している。買物の希望があれば本人と買い物に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には、家族に電話が出来るよう支援している。毎年、年賀状を書いたりしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、カーテンや窓を開け、自然の光や風が入り、外の音に耳を澄ませ、季節を体全体で感じられるような工夫をしている。昔懐かしい音楽を流し、皆で歌うことで、心地よく過ごせるよう工夫をしている。季節の花を育て、季節の花を飾ることで、目でも季節を感じていただけるよう配慮している。	リビングは、窓の工夫により風通しも良く、外の日差しが入り、明るく開放的な空間になっている。共有空間は回廊式であり、歩いたり外を眺めたり、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。また、季節の花や利用者の作品の飾りつけなど、気持ちよく楽しく過ごせるような工夫もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの畳には炬燵を設置し、テレビ周辺にはソファを設置している。そこで気の合う仲間同士で話をしたり、作業を行ったりと、個々が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具等、使い慣れた物を持ってきていただき、使用している。各居室にボードがあり、家族からの手紙や思い出の写真等が飾れる様にしている。	居室には使い慣れた家具を持ち込むことができるほか、専用の洗面台があり、ちょっとした汚れ物は洗えるようになっているほか、天然木で作られた大きなボードに、家族や思い出の写真を貼ることで、利用者が落ち着いて過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室前には、色違いのサークルがあり、自室がわかりやすくしてある。また、自室のわかりにくい方には、名前を貼る等の工夫をしている。トイレの場所は張り紙をしたり、トイレ時には、同じ場所にあるトイレに誘導する事で、場所を覚え、一人でも行かれるよう工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム新庄

作成日 平成28年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年2回の家族会では運営推進会議を開催しているが、その他の会議の内容が報告できていない。	年2回の家族会で定例の運営推進会議の結果を報告する事により、より多くの意見を求め、サービス向上に活かす。	家族会においてホームでの利用状況・活動内容・事故の状況の報告に加えて、定例に開催された運営推進会議での意見を書面で報告し、多くの意見を求める。	H28年7月～ H28年11月
2	3	引き続き地域貢献に努める。	事業所の力を生かした地域貢献に努める。	町と協働し、認知症の人の理解や支援の方法を地域に発信する	H28年4月～ H29年3月
3	13	より適切なケアを実現していきたい。	職員の知識、技術の向上を図る。	勉強会を定期的に行う。また、外部への研修へも積極的に参加できるよう、勤務の調整を図ると共に、伝達講習も行う。	H28年4月～ H29年3月